
あなざー・すとーりー その1

雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなざー・すとーりー その1

【コード】

N0610N

【作者名】

雄

【あらすじ】

他に書いている小説となにげリンクしています。

でも、これだけでもまあ読めるので、読んでってください
ちなみに、中学生の男の子のお話です。

？（前書き）

えっと、この話は、私が書いている小説、「俺とその周りの人たち
のありふれた今日」とリンクしている話です。

このお話の視点の人物は決まっていますが、それは本編で後々明
かされます。（多分）

この作品とリンクさせております。

<http://ncode.syosetu.com/n93781/>

俺とその周りの人たち
のありふれた今日。

？

それは、奴に目をつけられたことから始まった。

何て言うとかっこよく聞こえるかもしれない。

でも、そいつとの出会いは、ぼくにとっては、「最悪」以外の何物でもなかった。

話は、中学1年の春休みまでさかのぼる。

ぼくは、友人(?)の黒崎を、ツクに呼び出していた。

ぼくはこの時すでに、あいつに目をつけられていた。だから、黒崎を呼んでそいつのことを聞こうと思った。

「あのさあ……黒崎」

いきなり話を切り出してみる。

「ん？どした？」

黒崎は、ツクのポテト（Mサイズ）を頬張っていた。……腹減ってんだろーか。

店内は同じ学校のやつらや子供連れで賑わっている。

「あのさぁ……丁中の山崎って奴、知ってるか？」

ぼくがこう聞くと、黒崎はちょっと気まずそうな顔をして、

「っぁー知ってるけど」

ツクの店員がくれた水を一気に飲み干してから、こう言った。

「そいつって、どんな奴なんだ？」

急かすように、黒崎にこう聞く。

「んー、見た目は結構がっしりで、髪は赤くて、短髪で」

「うん」

「んで、性格は基本優しいらしいけど、張り合つと大変で、何かよくつかめねー奴」

「……ふーん」

ぼくは小さくうなずき、

「ありがとう」

とつぶやいた。

「……何でお前山崎のことなんか聞いたんだよ？」

黒崎が不思議そうにこう聞いてくる。

「んー……何か目えつけられたらしー」

「山崎に！？」

黒崎が、ひっ、と声を上げた。そして声をひそめ、

「かなりやべーぞそれは」

ぼくに「ごうささやいてきた。

「だよなあ……」

思わず机に突っ伏してしまふ。

「ま、大変かもしれないねーけど元気出せよ。おれも助けられるときは助けてやつからさ」

「ん……ありがとう」

そしてその日、悲しいことにぼくたちは、とんでもないことに巻き込まれることになった。

?

「つまり、山崎は……おれの仲間の間では、かなり有名な奴なんだ。おれはまだ遭遇したことないけど、ヤバい奴らし」

黒崎の言葉が、途切れた。その直後、前方から、赤い頭のがつしりした人影が見え、

「神元くーん？ 君が神元くんだよねー？」

……なぜかその人影はぼくの名前を呼んでいた。

ジトツ、とした汗が背中に張り付いているのが分かった。

「っ……まさかとは思っけど黒崎……」

ぼくは、黒崎の横顔をじっと見つめた。すると黒崎は、

「その『まさか』みたいだな」

淡々とぼくに悲しい事実を告げるのであった……。

「え……いかつくね？」

「別にいかつくなんかねーよ」

黒崎は、ぼくのことを呼んでいる奴を凝視している。

「よし。30人一気に倒した奴なら、今すぐ逃げよう」

ぼくは、黒崎の手をとり、言い聞かせるように言った。

「てめー怖気づいてんのか？」

黒崎の挑発的な声。

「は!?! 怖気づいてなんかねーよ!」

もともとぼくは喧嘩などの争い事が好きではない。……でも、ぼくだって男だ。

……用は、売られたケンカくらい買ってやるぜ、ってことよ。

？

「ふーん……お前が神元クンねえ……大したことなさそうじゃん」

ぼくと黒崎と山崎の三人は、河原に来ていた。

山崎が、つまらなさそうにぼくのことを見ている。

「……」

酷いよね顔で判断されるなんて。

……ちなみに、ぼくはチビの童顔だ。これからこの容姿が改善されることを切に願っているけど、身長も顔つきもなかなか変わってくれない。

9

「……てめえ、人を顔で判断するとバカ見るぞ？ 神元はチビで童顔だけど、実際意外と力強いんだからな！？」

黒崎が山崎に向かい威嚇していた。

ぼくは黒崎を見て小さくため息をつき

「今絶対悪口言ったよな！？」

口をとがらせよう言った。

「は？ 悪口じゃねーよー！」

「俺が神元クンバカにしたのが悪かった。……あのさ、俺、神元クンが何か強いらしいから喧嘩売りにきたんだけど」

どこか鼻にかかったような山崎の言い方が妙にぼくをイラつかせた。

「へー」

そっけなく返す。

黒崎が、

「なんだよあいつ？」

と山崎をにらみながらつぶやいた。

「じゃあ神元……こっち来いよ」

山崎がくすくすと笑いながら手招きしてくる。

「……………」

何かすっげームカつくけど、ぼくは黙ってそいつについていくことにした。

……ところで、河原は意外ときれいだ。草はぼつぼつだけど、ゴミは非常に少ない。

そして、先を歩く山崎の後ろ姿を見つめながら、彼の体格ががっ

しりしていることに気付いた。……絶対なんかの格闘技やってるわ
こいつ。

そんなこんなで、

「おらよ。喧嘩するには最高の立地だろ？ 思っ存分暴れられっぜ」

山崎がにっこり笑い立ち止まった。

そして、

？

「おい野田！ 面白い奴連れてきたぜ！」

橋の柱によっかかっている奴の方に向かいこっ叫んだ。何かのんきそうな奴に見える。

「お。山崎じゃん。……OK！そっち行くわ！」

たっ たっ た、と野田って奴がかけてくる。そいつも山崎も、学ランを着ていた。……あ、ちなみにぼくの中学の制服は、ブレザーだ。ブレザーの制服の中学からすると……というかぼくからすると、学ラン、というのはかなり珍しい。だから、つい……見入ってしまった。

……しょうがないよね。

「……山崎、こいつが、例の奴か？」

呑気そうな男子 いや、野田って奴が、山崎に向かいこっ聞いた。

「ああ」

「まさかとは思つが、こんなのに構ってやんのか！？……お前、あの意味すげーわ」

野田の口調は、明らかにぼくのことをバカにしていた。

「……」

唇をかみしめる。うぜえ。……何なんだこいつらは。

「野田、こいつが噂の神元クンなんだって。そんなこと言ったらかわいそうだぜ？」

「てめーらさつきから黙って聞いてたら一体何なんだよ！？30人倒したんだか何だか知んねーけど、別に俺たちはそんなことでビビったりしねーかなっ！」

……てか、神元バカにすんなら、黙っとけ」

黒崎が、低い低い声で言った。その声にはなかなか迫力があつた。

「ん……野田。お前はそがよく分かんねー奴やっといってくれ。よろしく頼む」

「……おう」

野田の表情が、一瞬、真剣になる。

「……」

緊迫した空気の中、ぼくたちは奴らと対峙した。

？

不意に野田が、

「その意味分かんないキミは、こっちで一緒にあそぼっか」
笑顔で黒崎にこう言った。

「ああ」

黒崎も笑顔で応対する。……が、彼の額には血管が浮き出ていた。
……「こえー」。

黒崎と野田がにらみ合いながら、どっかに消えてゆく。

「さて……と」

山崎が一步ぼくに近寄った。

「……来いよ」

「……はあ？」

山崎のことをにらみつける。……「まったく、何様のつもりだ。」

「どーゆーつもりだよ？」

ぼくがこう言つと、山崎は小さく舌打ちして、

「面倒くせーな……」

とか言いながらいきなり飛びかかってきた。

「っ!？」

何の心の準備も出来ていないぼくは、思いつきり山崎に殴られた。

……いや、殴られた、と自覚するまでに時間がかかった。ぼくは最初、何が起こったのか分からなかった。

それくらい、衝撃がでかかったんだ。

「何、すんだよ……!」

叫びながら、山崎に殴りかかる。

「あ? ム力つくんだよっ!」

ム力つくつて、初対面の奴にか?

「……んなもんしらねーっつーの!」

ぼくは、山崎の顔面をぶん殴った。そして素早く山崎から離れる。

何でおれはこんな意味不明な奴と喧嘩してるんだ?

そう思いつつ、ぼくは精一杯の助走をつけて、

山崎の腹に蹴りを入れた。

そりゃあもう、バツチり決まったさ。

ぼくの靴跡が見事に付き、山崎はぐったりと地面に倒れ込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0610n/>

あなざー・すとーりー その1

2010年11月17日03時04分発行